VOICE　第26回かがわけん科学体験フェスティバル

子ども達に科学の楽しさを感じてもらおうと、学校はもちろん、いろんな分野の人達が集まって全国で科学のフェスティバルが始まり、香川県でも香川大学や小中高のみんな、企業の皆さんも勢揃いしてこの科学体験フェスティバルを始めました。26年前のことです。香川大学教育学部の体育館とオリーブスクエアに 30を超えるブースを用意し、300人ほどの実行委員メンバーが、3000人を超える子ども達とその家族のみなさんに科学の楽しさを見て聞いて触ってもらっています。最初期からずーっと香川大学のメンバーは運営と出し物の中心的な役割を担ってきています。大学ならではの、ちょっとすごいなこれ、という出し物を毎年知恵を絞って子ども達に披露しています。今年、香川大学からは教育学部３ブースと創造工学部２ブース、あわせて5ブースが出ました。子ども達と交流するメンバーの様子をご覧ください。教育学部教授 高橋尚志

A ヒエヒエ・パック

私たちは『ヒエヒエ・パック』という題で尿素を水に溶かすことにより、吸熱反応が起こるという反応を使った実験を体験してもらうブースを作りました。これから寒くなり、冬には、暖かくなるカイロをよく使いますが、冷たくなるものはあまり体験したことがないでしょう。この冷たくなるものとその仕組みを子ども達に面白く伝えたいと思いました。このヒエヒエ・パックでの吸熱反応は一瞬で起こるので、子ども達や親御さんたちにも反応が非常によく、多くの来場者に来ていただきました。ありがとうございました。

教育学部３年　宇野鉄平

B 踊る紙パックを作ろう

私たちのブースでは『踊る紙コップ』と『万華鏡』の２つの工作体験を開きました。この工作では大学生が作り方を教え、子ども達自身の手で工作をしてもらいます。材料と道具はいずれも身近に手に入るもので製作します。製作後には各自で好きなようにお絵かきや飾りつけをし、その子だけのオリジナルのおもちゃにします。教え方は同じでも子どもによって作り方は様々で作品も個性豊かな物を作ってくれるので、毎度驚かされます。完成後に「できたー！」と喜んでくれる姿をみて、また一人この工作体験を通してものづくりを好きになってくれたなと嬉しくなりました。

工学部大学院１年　光畑直樹

C 後ろが見える?! スパイメガネ

私たちのグループでは、光の透過や反射という性質を利用して、前を向いていながら、後ろの景色が見える『スパイメガネ』を子ども達と作りました。スパイメガネをかける前から、実験道具に手を伸ばし、「どうやったら後ろがみえるの！」と懸命に答えを探す子ども達の姿は、本当に可愛いものです。そして、スパイメガネをかけ、後ろが見えた時に、「本当だ！後ろが見える！お母さん、見て！」ときらきらした笑顔で、はしゃぐ姿は感動ものです。科学体験フェスティバルでは、子ども達と私たちの笑顔が溢れて止まりません。

教育学部３年　丸山夏実

D コップとストローで声を作ろう！

私たちはプラスチックコップとペットボトル、ストローを用いて「アイウエオ」を表現する実験をしました。誰でも簡単に作ることができ、使うコップの大きさや口の形を変えることで音が変化するので小さい子どもから高校生まで幅広く楽しんでもらえる実験です。当日は、常にブースが満席になる大盛況で、自分が作成したもので音が出ると大変喜んでくれました。また、作成に必要な物は家庭で用意できるものばかりなので「家に帰って作ってみる」など言ってくれて、大変充実したものとなりました。来年も幅広い年齢層の方に楽しんでもらえるよう取り組んでいきます。

教育学部３年　秦 直也

E レゴロボットのゲームプログラミング

私たちプログラミングサークル SLP のブースでは、『レゴロボットのゲームプログラミング』を出展しました。レゴロボットは、プログラミングによってモータを動かしたり、音を鳴らしたりします。レゴロボットを制御するプログラムは、ブロックを組みたてるように作成します。当日は、多くの小学生がブースに来て、楽しくプログラミングを体験していました。中には、多くのブロックを組み合わせて、レゴロボットに複雑な動きをさせている小学生もいました。

工学部４年　西村拓海

2018 年 11 月 11 日（日）
かがわけん科学体験フェスティバル会場
（教育学部体育館）